

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 31日

事業所名 こども発達支援センターあすいろ

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14	2	0	遊戯室が活動に合わせて仕切れるようになっていいる。	
	2 職員の配置数は適切である	15	1	0		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	14	2	0	・玄関の段差がなく、エレベーターも設置している。・視覚障がい者用トイレ	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13	2	1	話し合いする時間が少ない。次年度の移行した後に期待。	毎週木曜日にミーティングを行っている。朝のミーティングでは前日の振り返りと注意点を確認している。全員参加できないときがあるので周知できるようミーティングノートを利用している。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	4	3	保護者向け、評価表・アンケートの実施を行っているか把握していく。	保護者向けの評価は職員間で周知を図り改善すべき点を検討している。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	4	4		ホームページと利用者との連絡アプリ上のお
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	4	4		うるま市の指定管理における事業所の評価に
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	16	0	0		医師や心理士による研修を毎月行っている。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	16	0	0		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	14	2	0		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	14	2	0		
適切な 支援の 提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	16	0	0		
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	12	3	1		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	14	1	1		放デイは集団活動が中心となっている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15	1	0		
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	4	3	・その日で出来ないこともあり、会議や翌日朝礼等で共有している。・その日のうちの振り返りの時間を確保できるよう	振り返りの時間を持てるように努力している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14	2	0		
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	14	2	0		
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	12	3	1		
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	15	1	0		
21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	12	3	1		学校との送迎時には児童のようすを聞いて、情報交換を行えるようにと職員につたえている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	12	4	0	まだ、受け入れが無い。対象児がいない。	医療的ケア児は3名おり、主治医から指示書やスコア表を作成してもらっている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	14	2	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	12	4	0	卒業児童がいない。小3程度までの受け入れをしている。これまでに該当児童はいないが移行する際に担	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	13	3	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	14	1	1		1Fにある児童館を交流活動の場として活用している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	10	5	1		保育所等などの協議会には定期的に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	15	1	0		送迎時にはその日の児童のようすや学校や保育所でのようすを聞くようにしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	16	0	0		親子通所で保護者向けレクチャーを隔週で行っている。
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	16	0	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	16	0	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	7	2	父母会や保護者会を設けていない。	ペアレントプログラム開催後の交流会があり、利用者同士の交流の場になっている。保護者会は毎年6月に開催している。職員への周知が不十分だった。保護者会の参加者が少ない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	14	2	0		あすいろ内に意見箱を設置して保護者の意向を聞きやすいようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	4	1		連絡事項は適宜連絡ソフトを利用して利用者に発信している。
	35	個人情報に十分注意している	16	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14	1	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11	4	1		こどもステーション祭りを開催し、地域にどうい活動をしているか発信している。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時 等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、 感染症対応マニュアルを策定し、職員や保 護者に周知している	13	2	1		保護者への周知へ努める。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救 出その他必要な訓練を行っている	16	0	0		避難訓練は年に3回行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確 保する等、適切な対応をしている	16	0	0		虐待防止と身体拘束の適正化に向けての 職員研修は、入職時と年に二回行ってい る。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行 うかについて、組織的に決定し、子どもや保 護者に事前に十分に説明し了解を得た上 で、放課後等デイサービス計画に記載して いる	15	1	0		契約時と、個別支援計画に明記して、保護 者に説明し確認をもらってる。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医 師の指示書に基づく対応がされている	15	1	0		受診している利用者には依頼している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共 有している	16	0	0		